

北陸地方整備局
松本砂防事務所

記者発表

発表日時

平成23年6月29日

配布をもって解禁

稗田山崩れ100年シンポジウム及び現場見学会の開催について

明治44年(1911)8月8日に、姫川左支・浦川の上流部の稗田山で大規模な山体崩壊が発生し、小谷村石坂地区の住人をはじめ23名の尊い命が失われるという、大きな被害が発生してから今年でちょうど100年になります。

姫川流域ではその後も平成7年(1995)災害のように、幾度か激甚な土砂災害を受けてきましたが、ここに住まう人々の努力により復興を果たしてきました。しかし近年では過疎化・高齢化が進み、災害に対する対応力が年々脆弱化しつつあるのも事実です。一方、異常気象等に起因するといわれている激甚な集中豪雨が日本各地で観測されるようになってきており、姫川流域でも大洪水や大規模土砂災害が発生する危険が高まっていると言えます。

こうしたことから、崩壊から100年という今年をひとつの節目として、過去の災害記録を掘り起こし、悲惨な災害の実態を再認識するとともに、教訓として後世に継承し、土砂災害に備えた地域づくりを目指し、地域とともに姫川流域の未来を考える取り組みを行う必要があると考えます。

そこで、広く啓発活動を行うことを目的として、別紙ちらしのとおり稗田山崩れ100年シンポジウム及び現場見学会を開催するものです。

参加申し込み等詳しくは、稗田山崩れ100年事業ホームページをご覧ください。
<http://www.hrr.mlit.go.jp/matsumoto/hiedayama/>

7月1日(金)～7月29日(金)まで参加申し込みを受け付けます。

ホームページ又は電話(長野県姫川砂防事務所TEL0261-82-3100土日祝日を除く8:30～17:00)で申し込み下さい。

なお、現場見学会はシンポジウム参加者に限り、参加申し込みが定員(100名予定)になり次第受付を締め切り、お断りする場合があります。

添付資料：別紙ちらし

問い合わせ先 北陸地方整備局 松本砂防事務所
Tel 0263-33-1115 (代表)
副所長 渡辺 芳巳
副所長 右近 則男

稗田山崩れ

語り継がれるべき災害の歴史

ひえだやま

写真：稗田山源頭部崩壊地

長野県北部から新潟県を経て日本海に注ぐ暴れ川姫川。その姫川の支流、浦川の上流部「稗田山（ひえだやま）」は、今からちょうど百年前の明治四十四年八月八日に突如大崩壊を起こし、小谷村をはじめ糸魚川市まで甚大な被害を及ぼしました。

崩壊後百年を節目とし、悲惨な災害を再認識するとともに、教訓として後世に継承し、姫川流域の未来を考えるための礎として「稗田山崩れ百年事業」を行います。

【車でお越しの場合】
 中央自動車道→長野自動車道 豊科ICより約60km
 関越自動車道→上信越自動車道 長野ICより約55km
 北陸自動車道→糸魚川ICより約40km

【JRでお越しの場合】
 大糸線 南小谷駅下車 タクシー約5分またはバス約8分



稗田山崩れ100年シンポジウム

参加無料

日時：8月8日（月）13:00～17:00

会場：小谷小学校

長野県北安曇郡小谷村大字千国乙3387番地1
 TEL:0261-82-3522

現場見学会

定員100名

参加無料

※シンポジウム参加者に限る

8月9日（火）9:00～14:00



写真：土石流被害を受けた糸魚川集落（小谷村）

主催：稗田山崩れ100年事業実行委員会

後援：国土交通省北陸地方整備局、林野庁中部森林管理局、長野県、新潟県、糸魚川市、白馬村、小谷村
 (社)砂防学会、(社)日本地すべり学会、(社)全国治水砂防協会、(財)砂防・地すべり技術センター、(財)砂防フロンティア整備推進機構、
 全国地すべりがけ崩れ対策協議会、(社)北陸建設弘済会、長野県治水砂防協会、新潟県治水砂防協会、長野県砂防ボランティア協会、
 (社)長野県建設業協会、(社)長野県測量設計業協会、信濃川・姫川水系砂防工事促進期成同盟会、小谷村姫川流域直轄砂防事業等促進期成同盟会、
 信濃毎日新聞社、新潟日報社、朝日新聞長野総局、中日新聞社、読売新聞長野支局、毎日新聞長野支局、
 NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、
 市民タイムス、大糸タイムス社、(株)上越タイムス社、新建新聞社、日本工業経済新聞社長野支局・松本支局

モバイル用QRコード



【参加をご希望の方】詳しくは、稗田山崩れ100年事業ホームページをご覧ください。http://www.hrr.mlit.go.jp/matumoto/hiedayama/

稗田山崩れ100年シンポジウム

◇◇◇ プログラム ◇◇◇

13:00 開会(開場12:00)

13:15 基調講演1

「これからの砂防がめざすもの」

南 哲行：国土交通省砂防部長

13:45 基調講演2

「稗田山大崩壊100年に想う」：地形・地質学の観点から

町田 洋：東京都立大学名誉教授

14:45 休憩

14:55 稗田山記録映像の放映

稗田山の崩壊について当時の災害を現在の状況と映像で再現。
収集した記録映像や明治40年生まれの実験者のインタビュー映像などを上映。

15:15 地元小学生による発表

発表者：小谷小学校「小谷っ子」クラブの皆さん

15:30 休憩

15:40 パネルディスカッション

「稗田山の崩壊 ～過去、現在、未来～」

パネリスト	岡本 正男：全国治水砂防協会理事長
	松本 久志：小谷村長
	米田 徹：糸魚川市長
コメンテーター	南 哲行：国土交通省砂防部長
	町田 洋：東京都立大学名誉教授
コーディネーター	平松 晋也：信州大学教授

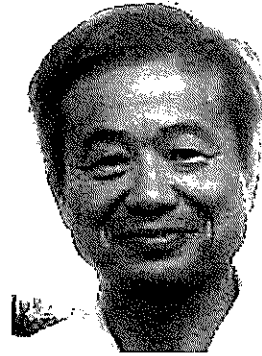
17:00 閉会

◇◇◇ パネル展示 ◇◇◇

- ・稗田山崩壊及び土砂災害関係のパネルや
姫川水系砂防事業の歩みについて展示。
- ・大北のくらしの変遷
- ・小谷小学校「小谷っ子」クラブ 現場見学会感想文の展示など

【基調講演 講師/コメンテーター】

南 哲行
国土交通省砂防部長



1952年生まれ。1977年京都大学農学部林学科卒業、農学博士。
1977年建設省(現国土交通省)入省
1977年に噴火した北海道有珠山の泥流対策では、当時稗田山対策で試験的に施行されていた鋼製砂防堰堤の技術を現地に取寄せ本格的に実施。1996年に発生した蒲原沢土石流災害では、土木研究所砂防研究室長にあって現地において技術支援を実施。その後、奈良県土木部長、東北地方整備局道路部長・河川部長、本省砂防部保全課長、同砂防計画課長などを歴任し、2011年1月より現職。

町田 洋
東京都立大学名誉教授



1933年生まれ。
1959年東京大学大学院教務系研究科修了。理学博士。
東京都立大学名誉教授。
前日本第四紀学会会長。
日本ジオパーク委員会副委員長。専門は地理学・地形学・火山学。
日本の火山灰燻年学の第一人者。大規模崩壊も研究しその例として50年以上前から蒲川での地形変化を観察してきた。

【パネリスト】

岡本 正男 全国治水砂防協会理事長

昭和22年生まれ。昭和46年京都大学農学部林学科卒業。昭和47年建設省入省、土木研究所、河川局砂防部、松本砂防事務所、北陸地方建設局、大和川河川事務所、河川局災害対策調査室、広島県、ネパール等に勤務、砂防部長で平成15年退職。現在、(社)全国治水砂防協会理事長、(社)砂防学会副会長、(社)日本地すべり学会理事等。

松本 久志 小谷村長

昭和24年生まれ。昭和43年南安曇農業高校卒業。
昭和43年長野県職員、平成20年から平成22年長野県姫川砂防事務所長
長野県砂防ボランティア協会員。
平成23年4月長野県北安曇郡小谷村長に就任(現在1期目)

米田 徹 糸魚川市長

1949年生まれ。金沢工業大学工学部卒業。1987年糸魚川市議会議員当選、市議会議員等歴任。2005年糸魚川市長選挙当選、現在2期目。
日本ジオパークネットワーク理事長。リサイクルポット推進協議会会長。
防災教育チャレンジプラン審議委員(内閣府)。

【コーディネーター】

平松 晋也 信州大学教授

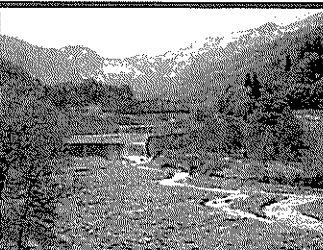
1958年生まれ。1981年愛媛大学農学部林学科卒業。農学博士。
高知大学助教授を経て、2005年より信州大学農学部教授(砂防学)。
1994年には、「雨水の浸透・流下過程を考慮した表層崩壊発生予測手法に関する研究」で砂防学会賞を受賞した。(社)砂防学会理事、事業部会長。
近年は深層崩壊やその予測手法の開発に向けた研究に取り組んでいる。

現場見学会

蒲川流域(蒲川・稗田山)をはじめとして、下里瀬、来馬河原など、稗田山崩れにゆかりのある箇所を見学。



「歲月茫茫」幸田文記念碑



蒲川橋



蒲川スーパー暗渠堰堤

現場見学会
お問い合わせ

長野県姫川砂防事務所

〒399-9422 長野県北安曇郡小谷村千国乙10307-3
TEL 0261-82-3100